

<b>授業科目名</b>	教育と日本の伝統文化演習 (2100145)		
<b>時間割名</b>	教育と日本の伝統文化演習 (54104)		
<b>時間割担当</b>	伊崎一夫	梶田勲一	小竹光夫 渡邊規矩郎
<b>実施期</b>	前期	<b>単位数</b>	1 選択
<b>曜日・時限</b>	金・4		

### 授業の目標・概要

日本の伝統文化を通して、教育者として身に付けるべき精神性を育成する。そのために、有職故実や伝統宗教に基づく文化や日本文化を代表する総合芸術である「茶華道」の精神を学ぶ。さらに、文字文化としての「書」の文化にも触れる。そうした学びを通して、日本文化の中で生きる自分自身を見つめ直す経験とする。

### 学習の到達目標

日本の伝統文化の成立と歴史的展開への理解を、演習によってさらに深める。  
 伝統文化の価値や意義について、自らの体験をふまえて説明することができる。  
 伝統文化の継承の意義について、自らの体験をふまえて深く考える。

### 授業方法・形式

・オムニバス方式/全15回 梶田、渡邊、伊崎、小竹が以下のように担当する。

第1回～第3回(梶田勲一/3回)

孔子から老子、荘子、道元、親鸞から千利休、本居宣長といった知の大家たちが書き記した言葉や思想を紹介しつつ、日本人として身につけておきたいしなみについて解説する。

第4回～第7回(渡邊規矩郎/4回)

有職故実や神道など、日本人の精神性の根源となる制度や思想について、知識伝承と理解を促す。

第8回～第11回(伊崎一夫/4回)

日本の伝統文化の代表である「茶華道」の作法や精神性などについて、実践を交えながら身に付ける。

第12回～第15回(小竹光夫/4回)

日本の伝統的の文字文化である「書」の作法や精神性などについて、実践を交えながら身に付ける。

- ・科目内容の特性を生かし、適切な人数による実習やディスカッションを行う。
- ・それぞれの演習内容に応じて、教材、プリント、資料等を活用する。

### 授業計画

- 第 1 回 本居宣長『初山踏』を読む [担当・梶田]
- 第 2 回 本居宣長『初山踏』を読む [担当・梶田]
- 第 3 回 本居宣長『初山踏』を読む [担当・梶田]
- 第 4 回 記紀万葉にみる日本人の心と精神性の変遷 [担当・渡邊]
- 第 5 回 神道と仏教の習合・共存と民間信仰 [担当・渡邊]
- 第 6 回 有職故実を神宮と皇室を通して考える [担当・渡邊]
- 第 7 回 吉田松陰『松下村塾記』に学ぶ伝統と革新 [担当・渡邊]
- 第 8 回 暮らしの中の茶道 - 茶室としつらえ - [担当・伊崎]
- 第 9 回 暮らしの中の茶道 - 主客と所作 - [担当・伊崎]
- 第10回 暮らしの中の茶道 - 点前と所作 - [担当・伊崎]
- 第11回 暮らしの中の茶道 - 会話と所作 - [担当・伊崎]
- 第12回 「文字を書く文化」の功罪について [担当・小竹]
- 第13回 日本における文字文化の変遷 [担当・小竹]
- 第14回 日本における文字文化の変遷 [担当・小竹]
- 第15回 過去・現在を踏まえた伝統文化の未来 [担当・小竹]

### 成績評価の基準

各回の演習に対する態度(50%)、学びの成果と課題等に関するレポート等(50%)を総合的に評価する。

### 授業時間外の課題

「教育と日本の伝統文化入門」「人間教育学1(入門)」等の学習内容を復習すること。  
 演習での学びを高め、積極的な取り組みへと発展させること。

### メッセージ

講義時間内にお伝えします。

### 教材・教科書

特になし。必要に応じて、授業中に指示します。

### 参考書

特になし。必要に応じて、授業中に指示します。  
 演習内容によって、必要に応じて実習費用を別途その都度徴収します。